

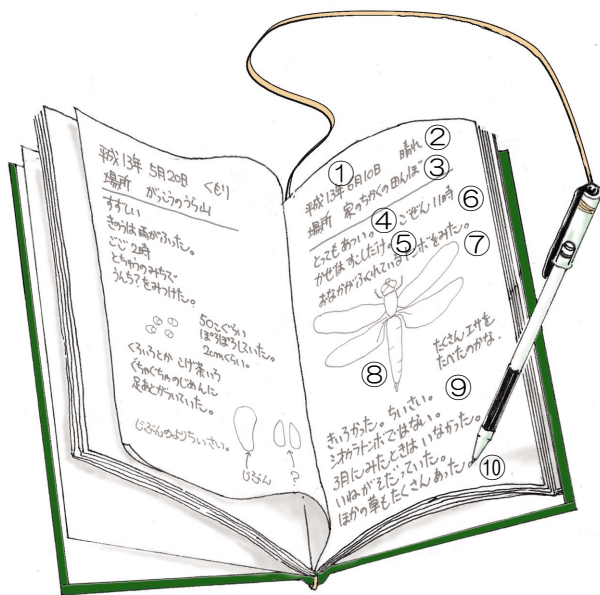
# 03 観察のガイド

ここまで、多くの生きものはそれぞれに必要な環境がある程度決まっています。その環境に深く結びついて生活をしていることをみてきました。それでは、実際に野山や川などに行って、環境と生きもの<sup>かか</sup>の関わりを体験するためには、どのようなことを頭<sup>えが</sup>に描いて観察すればよいのでしょうか。

ここでは、いくつかの例として、わかりやすい観察のポイントを紹介します。これをヒントにして、できるだけ自分で環境と生きもの<sup>かか</sup>の関わりをさがしてみてください。きっと、たくさんの答えや疑問がうかんでくることでしょう。そうした気持ちで“観<sup>み</sup>る”ことが大切です。

## Check 1

### メモのとりかたの例



- ① 月日
- ② 天気
- ③ 場所
- ④ 気温
- ⑤ 風の状態
- ⑥ 時間
- ⑦ みつけたもの
- ⑧ みつけたもののスケッチ  
(色や大きさ)
- ⑨ 気づいたことや感想
- ⑩ まわりのようす

とにかくなんでも記録しよう  
みたもの、聞いたもの、思ったことなど

## Check 2 服装と持ちもの



1. ぼうし
2. 長そで
3. 長ズボン
4. 長ぐつ, \*運動ぐつ
5. 軍手
6. リュック
7. 双眼鏡  
ちがんきょう
8. アミ



9. 図鑑  
ずかん
10. フィルムケース
11. 虫めがね
12. 金魚アミ
13. この本
14. ウエストポーチ
15. ジッパー付き  
ナイロン袋
16. メモ帳とペン

# 林で観察

## Point1 林の中を<sup>み</sup>観る

P. 14では、林の環境を大きく4つに分けて説明しました。ここでは、今あなたがみている林がどんな林なのかを観察し、またどのようにしてできたのかを考えてみましょう。林の成り立ちや特徴などを以下に書きましたが、本当にそうなのでしょうか？実際に林に入って確かめてみましょう。

### 人工林

人間がもとの林を切って、新しくつくった木の畑のようなものなので、生えているのはスギやヒノキがほとんどです。木の大きさもほとんど同じで、太い木や細い木がまじって生えていることは、あまりありません。植えられたばかりの林では、木はまだ小さく、陽がてり乾燥していますが、木が育つてくると林の中は一年中暗くなり、また林床(地面)には落ち葉もたまり湿っていて、地面にすむ昆虫や小動物も種類や数がかわってきます。



141. 人工林の中

スギとヒノキの人工林では、地面のようすが大きく違います。これはヒノキでは古くなった葉だけが地面に積もり、林床は比較的平坦になるのに対し、スギでは古い葉のほかに枝も落ちて積もることで、林床に凹凸ができやすいためです。しかし、間伐や枝打ちといった手入れの状態によっても、林のようすはずいぶんと異なります。

### ブナ林

大阪府では能勢町の妙見山や千早赤阪村の金剛山、岸和田市・貝塚市の和泉葛城山などの、山頂付近に行かないとみることができません。ほとんどが原生林で人の手があまり入っていないことが特徴で、生えている木の大きさや種